

ディプロマポリシー・企業の求める人材像に関するアンケート調査報告

2026 年 9 月
敬和学園大学

Ⅰ. アンケート調査概要

本学のディプロマポリシー（学位授与方針）がどの程度卒業生の身についているかを測定するため、本学が学位授与方針を設定した年度以降の卒業生ならびに新潟県内および新発田市近郊の企業や官公庁を対象にディプロマポリシーの定着に関するアンケート調査を行った。また企業の求める人材像に関するアンケート調査を実施した。

	卒業生対象アンケート調査	企業対象アンケート調査
調査趣旨	卒業生の勤務状況を知り、本学の学位授与方針がどの程度卒業生の身についているかを測定する。卒業生の総合的な満足度を調査する。	① 本学卒業生を採用いただいている就職先では、学位授与方針で設定した知識や技能、姿勢が卒業生にどの程度身についていると評価しているかを知る。本学卒業生採用に関して総合的な満足度を知る。 ② 本学卒業生を採用していない企業も含め、企業や官公庁が大学卒業者に求める能力や資質を知る。
対象者	2018 年度、2019 年度本学卒業者	敬和学園大学主催企業との就職懇談会参加企業、オレンジ会参加企業
実施期間	2026 年 8 月	2025 年 12 月
実施方法	ウェブによる回答	書面での記入
調査項目	プロフィール（卒業した学科、卒業年度、現在の職業等） 学位授与方針（ディプロマポリシー）に関すること 本学での学びに関する満足度	プロフィール（業種と規模、本学卒業生採用状況、採用した学生をどの程度知っているか） 企業の求める人材像（資質・能力・知識）に関すること 留学生の採用に関すること、インターンシップについて 学位授与方針（ディプロマポリシー）に関すること 本学卒業生の採用に関する満足度
有効回答数	21 件（回収率 11.05%）	68 件

*回答は「当てはまる (4)」「おおむね当てはまる (3)」「あまり当てはまらない (2)」「当てはまらない (1)」「職種に該当しない (0)」の 5 択
「職種に該当しない (0)」は「割合 (%)」計算時には分母から除いた。

2. アンケート調査結果

ディプロマポリシー	項 目	卒業生		就職先企業	
		順位	割合(%)	順位	割合(%)
	回答数	21		68	
基礎知識	1 仕事（家事）に対する熱意・意欲がある	8	61.9%	7	94.3%
	2 誠実である	2	90.5%	1	100%
	3 責任感がある	3	80.0%	2	98.1%
	4 人の尊厳を尊重する姿勢がある	1	95.2%	2	98.1%
	5 一般知識・教養がある	14	90.5%	8	92.5%
	小計（平均）		83.7%		96.6%
専門知識・論理的思考・批判的思考	6 グローバルな視点をもっている	17	90.0%	19	62.3%
	7 専門分野の基礎知識がある	18	66.7%	18	69.8%
	8 論理的思考力がある	12	76.2%	17	75.5%
	9 多面的に考える力がある	10	81.0%	13	84.9%
	10 課題発見力がある	15	75.0%	16	83.0%
	11 問題解決力がある	15	75.0%	13	84.9%
	小計（平均）		77.2%		76.7%
コミュニケーション能力	12 コミュニケーション能力がある	7	85.7%	2	98.1%
	13 外国語のコミュニケーション能力がある	20	40.0%	20	39.6%
	14 情報リテラシーがある	13	71.4%	12	88.7%
	15 表現力・プレゼンテーション能力がある	19	55.0%	13	84.9%
	小計（平均）		63.4%		77.8%
社会との関係	16 主体性・積極性がある	11	71.4%	11	90.6%
	17 協調性がある	6	95.2%	2	98.1%
	18 マナーが身についている	9	85.7%	6	96.2%
	19 規律性・倫理観がある	4	95.2%	8	92.5%
	20 会社や地域社会に貢献しようとする意欲がある	4	90.0%	8	92.5%
	小計（平均）		87.6%		94.0%
平均			78.7%		86.2%
	21 総合的に判断して、敬和学園大学での学びに満足している		81.0%		
	総合的に判断して、本学卒業生の採用に満足している				98.1%

「順位」は原則として「割合(%)」の高い順。同率の場合「当てはまる (4)」が多い順。「割合 (%)」は、回答数に占める「当てはまる (4)」「おおむね当てはまる (3)」の割合

3. アンケート調査結果の分析と改善方法

●卒業生が回答した「自身の状況」のうち、以下の項目の評価が高い。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 基礎知識 4 | 人の尊厳を尊重する姿勢がある (95.2%) |
| 2. 社会との関係 17 | 協調性がある (95.2%) |
| 2. 社会との関係 19 | 規律性・倫理観がある (95.2%) |
| 4. 基礎知識 2 | 誠実である (90.5%) |
| 4. 基礎知識 5 | 一般知識・教養がある (90.5%) |

●卒業生の就職先が回答した「卒業生の印象」のうち、以下の項目の評価が高い。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 基礎知識 2 | 誠実である (100%) |
| 2. 基礎知識 4 | 人の尊厳を尊重する姿勢がある (98.1%) |
| 2. コミュニケーション能力 12 | コミュニケーション能力がある (98.1%) |
| 2. 社会との関係 17 | 協調性がある (98.1%) |
| 5. 基礎知識 3 | 責任感がある (98.1%) |

●卒業生が回答した「自身の状況」のうち、以下の項目の評価が低い。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. コミュニケーション能力 13 | 外国語のコミュニケーション能力がある (40.0%) |
| 2. コミュニケーション能力 15 | 表現力・プレゼンテーション能力がある (55.0%) |
| 3. 基礎知識 1 | 仕事に対する熱意・意欲がある (61.9%) |
| 4. 専門知識・論理的思考・批判的思考 7 | 専門分野の基礎知識がある (66.7%) |
| 5. 専門知識・論理的思考・批判的思考 11 | 問題解決力がある (75.0%) |

●卒業生の就職先が回答した「卒業生の印象」のうち、以下の項目の評価が低い。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. コミュニケーション能力 12 | 外国語のコミュニケーション能力がある (39.6%) |
| 2. 専門知識・論理的思考・批判的思考 6 | グローバルな視点をもっている (62.3%) |
| 3. 専門知識・論理的思考・批判的思考 7 | 専門分野の基礎知識がある (69.8%) |
| 4. 専門知識・論理的思考・批判的思考 8 | 論理的思考力がある (75.5%) |
| 5. 専門知識・論理的思考・批判的思考 10 | 課題発見力がある (83.0%) |

○「企業が求める人物像」上位5項目は以下のとおり

資質 「主体性」(52.9%)、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」(76.5%)
能力 「課題設定・解決能力」(66.2%)、「コミュニケーション力」(94.1%)
知識 「理系・文系の枠を超えた知識・教養」(69.1%)

1. 人間教育の定着と就職先企業からの極めて高い信頼

本学卒業生を採用している就職先の98.1%が「本学卒業生の採用に満足している」と回答しており、卒業生自身の学びに対する満足度も81.0%と高い水準を維持している。特に「誠実である(企業100%/卒業生90.5%)」「人の尊厳を尊重する姿勢がある(企業98.1%/卒業生95.2%)」「協調性がある(企業98.1%/卒業生95.2%)」の3項目は、卒業生・企業双方においてトップクラスの評価となった。これは、本学の建学の精神に基づく人間教育の要が着実に根付き、職場や社会において信頼される人間性の基盤となっていることを物語っている。

また、企業が求める資質・能力の中で最も重視されている「コミュニケーション能力(94.1%)」に対し、就職先からの卒業生のコミュニケーション能力に対する評価は98.1%に達しており、企業側の需要と本学卒業生の強みが強く合致していることが確認できる。

2. 自己評価と企業評価の乖離（ギャップ）に関する分析

卒業生の自己評価において、「仕事に対する熱意・意欲(61.9%)」や「主体性・積極性(71.4%)」が相対的に低くあがったのに対し、企業側からの評価では「仕事に対する熱意・意欲(94.3%)」「主体性・積極性(90.6%)」ともに9割を超える非常に高い評価を得ている。卒業生自らが自身の姿勢を控えめに捉える「謙虚さ」の傾向が見られるものの、実際の職場においては意欲的・主体的に業務へ取り組んでいることがうかがえる。

一方、「グローバルな視点」については卒業生の自己評価(90.0%)に対して企業評価(62.3%)が低く、認識に乖離が見られる。卒業生が抱くグローバルな関心や意識が、業務上の具体的な行動や成果として企業側に十分伝わっていない可能性が示唆される。

3. 重点課題と具体的な改善アプローチ

今回の調査結果を踏まえ、本学として重点的に取り組むべき改善課題は以下の通りである。

- (1) 外国語運用能力および表現・発信力の強化 「外国語のコミュニケーション能力」は卒業生(40.0%)・企業(39.6%)ともに最低水準にとどまっており、グローバル化・多様化が進む社会に対応した語学教育の充実が急務である。また、卒業生の「表現力・プレゼンテーション能力(55.0%)」の低さを改善するため、自身の意見を分かりやすく発信する機会の創出が求められる。
- (2) 専門基礎知識と論理的思考力・課題解決力の底上げ 「専門分野の基礎知識」は卒業生(66.7%)・企業(69.8%)ともに6割台にとどまり、企業における「論理的思考力(75.5%)」の評価にも改善の余地が残る。企業が重視する「課題設定・解決能力」に応えるため、専門教育の充実を図る必要がある。

4. 今後のカリキュラム展開と取り組み

本学では、上記の課題解決に向けて以下の施策を継続・発展させていく。

- アクティブラーニングのさらなる推進： 講義内でのディスカッションやプレゼンテーションの機会を充実させ、論理的思考力と表現・プレゼンテーション能力を錬磨する。
- 実践的な国際・地域体験の拡充： 「地域活動または留学・海外研修（サービ斯拉ーニング）」の選択必修化を活用し、異なる背景を持つ人々と主体的に協働する態度や実用的なコミュニケーション能力を養う。
- 新学科カリキュラムの着実な実施： 2026 年度よりスタートした新学科カリキュラムのもと、理系・文系の枠を超えた教養と専門分野の基礎を体系的に習得させ、時代のニーズに即した課題発見・解決能力を有する有為な人材の育成に努めていく。